
鶏肉は哀しい

Qchadell

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鶏肉は哀しい

【Nコード】

N9081P

【作者名】

Qchadell

【あらすじ】

鶏肉の哀しい事実。それとおまけもあるよ。

(前書き)

チヨイ雑でございまする候。

昨日すき焼きだった。勿論夜だ。昼にすき焼き何てものを食べる奴を俺は心から軽蔑するし、朝からすき焼きを食べる奴なんて別次元の人間に違いない。

まあそんな正月から金持ちへの憎しみを募らせているのも何なのでとっと話を進める。

いつ以来だろうか、すき焼き何て高級なものを食べれるのは。

あるドラマですき焼きについてとやかくうるさく言う男とそれとほぼ反対の事をし続ける家族の話があった。

それを思い出して、ネットで食い方を調べた。

「あゝまず鍋を加熱して、んでえゝつと煙が出るぐらいにね。常に中火だよ。絶対強火とか駄目だよ。それからあの牛のサイコロみたいな油の塊を溶かすんだよ。え？ 無い？ あの塊がないだと？ そんな馬鹿な……。この際仕方ないか、ああつとまず鍋をあつためるって言ってんのに何で先に入れちゃうんだよ」

「んで、まずねえ。ネギだよ。ネギネギ、んで次に広げながら牛肉だよ。砂糖と醤油はちよつと多いぐらいで良いらしいよ。まず牛肉。豆腐と牛肉を離すんだ。え？ 糸こんにゃく？ そうか糸こんにゃくと肉を離すんだな。よし、離せ」

こうしてすき焼きは始まり、緊張感を薄めることなくひとしきり楽しんだ後「鶏肉有るけど」との事。

何となくもつと食いたいので鶏肉を切り、ドバドバと鶏肉を鍋に入れる。

この瞬間である。

この瞬間に全ての緊張の糸が切れるのだ。

「とっとと煮込んじゃおうぜ。中火じゃなくて強火で良いよ」

そう、「すき焼き」が「煮込む」に変わるのだ。

中火がどうだなんてもうどうでもいい。糸こんにゃくがどうしたというのだ。

なぜなら、牛から鶏に変わったからだ。

しまいには火の通った鶏肉をオタマで一掃する程である。

鶏肉は、哀しい。

おまけ

ずいぶん前の話となるが、前書いた「いらっしやいませえ？」の店員に次ぐムカつく事があった。

某コンビニに行った時の話だ。

扉のガラスは必ず透明なので店内の様子が见れるのだが、なぜか私は扉を一切見ずに中に入った。

そこには変な丸っこい掃除機で入口付近の床を掃除していた店員が目の前に居た。

何で店員がこんな入口の近くに居るんだ……。

店員がお決まりのあいさつが飛ぶ。

「いらっしやいませえ」

つい目の前に居る店員に焦って、

「あっすいません」

と言ってしまう。小心者日本代表の哀しい性だ。

「はい？」

店員がキョトンとして聞いてくる。

「……」

「……」

どうしたんだこの空気は。何でいらっしやいませに返事をしたら誰もがキョトンなんだ。

大体おめえがそんなに入口付近に居たからビビっただけだろうが。

全国のコンビニアルバイターに告ぐ。

入口付近に居るんじゃねえ。

(後書き)

あ
あ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9081p/>

鶏肉は哀しい

2011年1月8日23時48分発行